岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

流域生態系の植生および農地利用が河川水質に及ぼす影響

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菊池, 多賀夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/283

流域の土地利用，特に農地利用は河川の水質に密接に関連することが指摘され，水質への影響に対しては抑制あるいは浄化に働く植生の機能も次第に明らかにされてきている．しかし，河川水質に対するそれらの影響は明らかであるにしても，その強さは，森林，草原および地形などの別，森林にしても針葉樹林，落葉広葉樹林，常緑広葉樹林などの別，また自然林，二次林（半自然林），人工林などの別，また耕地においても畑作地や永年草地の別などによって違うものと予想しなければならない．良好な河川水質を維持するための具体的な技術改善指針を得るためには，まだまだ多くの研究が必要とされている．流域はいろいろなタイプの植生といろいろなタイプの土地利用の複合として成り立っており，その複合から生まれる生物的多様性と土地利用の多様性が高く維持されることは流域生態系の姿として望ましいことである．しかし，それに加えて，河川水質を良好に維持するためには複合（構成）そのものの適正さ，すなわち流域生態系構成要素としての植生と土地利用を適正に選択し，適正に配置することが課題であり，そのための基礎として，構成要素の特性を個々のレベルで把握することが必要となる．本研究では流域生態系の管理のための基礎研究として，河川水質に対する植生と地形の効果および農業活動の影響を，植生タイプごとの違いや農業経営方式の違いまで掘り下げてあきらかにすることをめざした．

研究組織

菊池多賀夫	（流域環境研究センター教授）
大久保忠旦	（茨城大学理学部教授）
湯浅　晶	（流域環境研究センター教授）
篠田成郎	（流域環境研究センター助教授）
秋山　侃	（流域環境研究センター教授）
津田　智	（流域環境研究センター助教授）
安藤辰夫	（流域環境研究センター助教授）
西条好迪	（流域環境研究センター助教授）

研究経費

平成７年度	１８，１００千円
平成８年度	２，０００千円
平成９年度	１，６００千円
計	２１，７００千円